25PB-pm276

多変量解析を用いた早期臨床体験における学修成果の検討　―施設訪問で受けた印象に関するポストアンケートの解析―

○曽根 知道[1], 串畑 太郎[1], 生田 陽光[1], 西川 智絵[1], 栗尾 和佐子[1], 安原 智久[1]（[1]摂南大薬）

【目的】早期臨床体験は、薬学部入学生が薬剤師の職能に対する理解を深めることで、今後の学修意義を認識し、学修意欲の向上へと繋げると共に、医療者としてのプロフェッショナリズムの涵養においても重要である。本研究では、早期臨床体験による学修成果を学生に対するアンケート結果の多変量解析から検討する。
【方法】2016 年度 1 年次生 217 名は、病院（45 グループ・25 施設）、薬局（54 グループ・26 施設）で早期臨床体験を行った。両施設訪問後、学生毎に訪問施設で受けた印象に関するポストアンケート（五件法・全 28 項目）を実施した。アンケート結果を用いて探索的因子分析（主成分法・Quartimin 回転）を行い、抽出された因子は、各因子を構成する項目（因子負荷量：0.5 以上）より命名した。更に、算出された因子得点を用いて階層型クラスター分析（Ward 法）を行った。
【結果・考察】因子分析の結果、因子 1：薬局薬剤師への関心（7 項目，22.4%）、因子 2：病院薬剤師への関心（7 項目，21.4%）、因子 3：薬局での地域・在宅医療の認識（4 項目，16.6%）、因子 4：病院でのチーム医療の認識（2 項目，12.1%）、因子 5：病院施設への信頼（2 項目，8.3%）、因子 6：医療人としての自覚（2 項目，8.7%）の 6 因子（構成項目数，寄与率）が抽出された。クラスター分析の結果、病院・薬局双方への関心が高く、医療人としての自覚も高い F 群（23.4%）、病院・薬局への関心は平均より高いが医療人としての自覚の低い G 群（26.6%）、病院への関心が非常に高いが、薬局への関心が著しく低い H 群（4.7%）、病院・薬局双方への関心が低い I 群（17.3%）、病院への関心が低い J 群（28.0%）の 5 群（構成比）に分類された。各因子得点を左右する要素が学生本人によるものか、訪問施設によるものかを、分類された群毎に施設での見聞・体験の内容と共に検証していく。